

天台宗 金剛山 常住寺 円務院

常住寺はもと津高郡江与味村(現加賀郡吉備中央町粟井谷、杉谷および久米郡美咲町江与味)に寺地だけ残っていた円城寺末の玉泉寺を、岡山城下内山下石山に再興して藩主池田家の祈禱所としたもので、宝永4年(1707)9月10日東叡山寛永寺の直末に列した。

同年10月27日に伽藍の再建に着手、同5年3月3日完成して入仏式を行い、現存している本堂はこのときのもの。廃藩後の明治5年に上石井にあった興国山長延寺に合併して同所に移り、長延寺の寺号を廃して常住寺と称し、その後和気郡藤野村南光院に合併移転、ついで大正8年10月22日現在の地に移る。

本堂は三間に三間の入母屋造本瓦葺とした堂で東面しており、大棟の両端に菊の紋章のある鬼瓦を飾り、斗拱間の中備に鶴・亀などの彫刻を入れた臺股を用い、正面中央の臺股には池田家の裏紋とよばれる竜胆の彫刻を入れている。

天台宗の高僧葉上照澄大阿闍梨も住職を務められた寺院ですが、長年風雨に晒され荒廃したこの名刹を甦らせるべく、復興プロジェクトが現在進行しております。

比叡山延暦寺の霊木『楓』をこの常住寺の復興の為に拝領し、「根本中堂楓プロジェクト」としても同時展開しながら、「叩き彫佛」釈迦(過去)、薬師(現在)、弥陀(未来)の三千躰を安置し、世界大和・万民和楽を祈る3,000人の想いを集める場、三千神佛安寶堂を「本堂移築百年記念事業」として、常住寺境内に建立いたしました。

この三千神佛安寶堂の建立を機にひとりでも多くの方に仏縁神慮を頂戴して頂けたらと安置する「叩き彫佛」の三千佛奉納をここにご案内申し上げます。

奉納者には、堂内にお名前を刻み、霊木「楓」分身佛(木端佛)を授与致します。

ご家族皆様共に、一人一躰の奉納の仏縁を結ばれることをお願い申し上げます。

三千神佛安寶堂叩き彫佛 奉納のおすすめ

奉納者へは、一口につき一躰の分身佛(木端佛)を授与させていただきます。比叡山延暦寺根本中堂中庭にあった霊木『楓』で作成したお守り佛(3～5cm)です。常に身につけてご祈念下さい。

今後の経過は、右下のQRコードを読み込むか、facebook『常住寺』で検索した『三千神佛安寶堂』に順次掲載していきますので、お見守りいただければ幸いです。

志納：一人一口2万円
**奉納三千佛一躰一躰の足元に奉納者の
ネームプレート設置**
霊木『楓』材の分身佛(木端佛)を授与



奉納申し込み手順

郵便振替で通信欄に奉納申込口数その口数分の奉納者名、その他必要事項(住所・氏名・電話番号)を記入し下記まで志納ください。

口座記号番号 01380 - 8 - 104230

口座名称(漢字) 常住寺・(カナ) ジョウジュウジ

申込の郵便振替をもって、寄付志納證(領収書)に代えさせていただきます。

問い合わせ先

常住寺復興プロジェクト委員会

090-3636-3744

岡山県岡山市中区門田文化町 2-7-19

常住寺ホームページ: <https://joju-ji.com>

常住寺Facebook: <https://www.facebook.com/jojuji.Tendai/>



常住寺ホームページ



常住寺facebook

岡山藩主池田家祈禱所
葉上照澄大阿闍梨顕彰
天台宗 金剛山 常住寺

祈 世界大和
萬民和楽



常住寺境内案内

《葉上照澄大阿闍梨 顕彰碑 贊文》
 宗教界・真の大先達 葉上照澄大阿闍梨
 黒住教 第六代教主 黒住宗晴

かつて岡山城の一角にあった岡山一中と同じ頃に学んだ誼(よしみ)で、後輩の父五代教主は葉上先生にじつ懇にしていた。先生は私にも何かと目をかけて下さっていました。先生は、この常住寺に住ま居して通われた岡山一中から六高、東大と典型的な秀才コースを歩みながらも、幅広く文芸の世界にも通じておられ、さらには青春のさ中に花開いたロマンスは、菊池寛の小説「心の日月」のモデルにもなるような純粋なものでした。東大で学んだドイツ哲学を元に、大正大学の教壇に立たれる中で、その新婚生活も学生の時に得度されていた夫人が病没され、その悲しみを小生の時に得度されていた仏道に、一歩を進めさせたようです。仏教学を極めるべく努めながらも、一人身の年を重ねたお母様のことを案じて郷里岡山に帰って合同新聞(現山陽新聞)に入り、論説委員としておつとめの中に終戦を迎えられました。

わが国未曾有の混乱の終戦直後、先生は静かに比叡山に入られました。日本の再興のためには、まず自らを鍛えなおすの、お思いからでした。ほどなく、白麻装束に懐剣を身に帶した(挫折した時の自決用)千日回峰というこの上ない苛酷な修行に入られました。その間、九日間の不眠不休不臥、断食断水という死の淵に立つて折り続ける時もある回峰行でした。悲愴感さえ漂うこの修行にもかかわらず、大廻りと言われる京都市内外を一日で巡り続ける時など、先生は「大廻りと言われるお地蔵さん」とユーモラスに称されていたとのこと。それは四万キロにも及ぶ長丁場でした。加えて更に千日間ずつの別の修行を二回重ね、計三千日の修行を終えられた先生の為すべきことは、ひたすらの世界平和への献身でした。

懸命のご活動の中でエジプトのサタト大統領と肝胆相照らす仲になり、それはシナイ半島のシナイ山で初めのユダヤ教、キリスト教、イスラム教の代表者による共同礼拝式典につながりました。数々の日本人宗教者もいざなって中東和平に尽くされながら、世界連邦日本宗教委員会を創立して世の宗教者の目を世界に向ける機会をつくり、さらに世界宗教者平和会議日本委員会と共同して比叡山宗教サミットも創設されました(以下略)

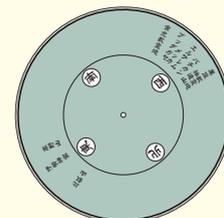
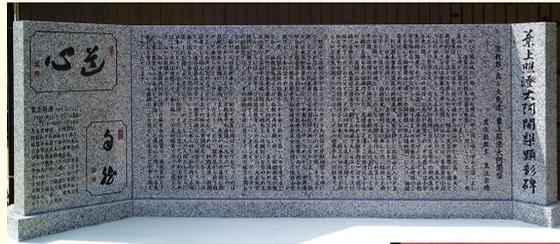


釈迦(過去)、薬師(現在)、弥陀(未来)の叩き彫佛三千躰を安置し、世界大和・万民和楽を祈る3,000人の想いを集める場。

あんほうどう 三千神佛安寶堂



本堂



聖地選拝所

宗教を超えた世界平和を訴え、世界宗教サミットを実現させた元住職葉上照澄大阿闍梨の想いを引き継ぎ、各宗教の聖地を巡拝する場。



疫病退散のご利益で有名な比叡山麓延暦寺大林院の角大師のご分身の石碑。

角大師 (元三大師) 疫病退散石碑



葉上照澄大阿闍梨 顕彰碑

火焰ウォール

葉上照澄(はがみしょうちょう)大阿闍梨

1903年8月15日～1989年3月7日。天台宗僧侶、大阿闍梨、常住寺住職、延暦寺長藤で初代印度山日本寺竺主および世界連邦日本宗教委員会初代会長である。また、ローマ教皇パウロ6世と接見し、平和のために働くことを誓い合う。ニューヨーク大聖堂において法話が実現し、宗教を超えた世界平和を訴え、後に世界宗教サミットを実現させた。



なりきり不動明王の撮影スポット、

客殿・寺務所 J3スタジオ



黒住宗道黒住教第七代教主、RNN 事務局長と永宗幸信常住寺代表役員代務者、RNN 委員長が毎月第2火曜日午後8時から、生放送番組「こころひとつにRNN」をFacebook、YouTuber等で動画配信しています。

山門



護摩堂



毎月6日、午後2時から護摩供養を行っています。毎年3月6日は葉上大阿闍梨顕彰法要を催行しています。

